

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント, 大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし, 行間・文字間, 上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は, 進行プログラムに沿って適宜, 右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 国立大学法人兵庫教育大学・宍粟市教育委員会
コラボ研修プログラム	テーマ： 自立・自律的に学び続ける教師集団づくりを推進するミドルリーダー育成プログラムの開発
支援事業報告書	研修等名：【NITS・兵庫教育大学コラボ研修】 「協働」と「対話」のワークショップ② 「教員・保護者・子どもが学び合う宍粟の学校づくり」—学び合う学校像, 子ども像, 地域像の構想— 開催日時：令和3年12月3日 14時～16時30分 開催場所：宍粟市教育研修所（宍粟市波賀町野尻 119-2）, 大学教員の一部はオンライン参加 参加人数（総数）と参加者の属性：（24人） 大学教員3人, 市教委指導主事1人, 市教育研修所1人, 市内ミドルリーダー19人

内容：※全体発表の内容をテープ起こしするなど, 具体的に記載してください。研修等の様子は, 写真を右に貼り付けてください。

1. はじめに

筒井教授より, あいさつと「経験の意味」について（写真上）。山内准教授より, 今回の研修の流れの説明

2. 前回の研修後のアンケートから

前回の研修「若手の考え, 行為をどう受け止めるか」を受けて

(1) 質問

「教員が学び合う学校組織の構築に向けて, 求められるスタンスや振る舞いについて, 現時点でのお考えをお聞かせください。」に対するミドルリーダー自身で考えた回答（例）

- ・自分自身が省察的实践者であるかどうか, どのようにして確かめたら良いのでしょうか。自分で自分のことを評価するのは難しいことです。独りよがりでも いけません。
- ・丸投げではなく, 分掌を一緒にするなど「協働」することでしょうか。
- ・何十年たっても, 結局, 声の大きい人勝ちだと思っています。その雰囲気を変えようと戦ったこともありますが, 難しかったです。
- ・今, まず我々に求められているのは, 同僚, 児童, 地域などの声にいかにかに耳を傾け, 学校チームとしての現状を的確に知ることかと思います。」

(2) 大学教員よりコメントと内容 3. への導入（一部抜粋）

・「これまでの研修で『独りよがりではいけない』という認識をもてたこと, 『協働の在り方』に問いをもてたこと, 『雰囲気を変えたい』との思いが強いことが対話を通してわかってきました。置かれている現状や問題に気づけていることで, 課題の解決策を見出すチャンスです。解決のための像を描くことは非常に重要。そのためのプロジェクト（10年後の将来像として）提案をしませんか。

3. 学び合う学校像, 子ども像, 地域像の提案プレゼンづくり

10年後の学校像, 子ども像, 地域像を考えることで, 学校を変えたいある種のきっかけ作り・モデルを見出すとともに, 協働的な活動を通して共有材になり得る課題の解決を通して理解を深めていく研修とする。4～5名からなる4グループ編成で実施（写真下）。

4. 中間発表・コメント

各グループでプレゼン案を発表した。その際, 将来像を提案する上で困ったこと, 葛藤についても語るようアドバイスした。

5. プレゼンの再構成

6. おわりに

今回研修の振り返りと次回研修の見通しの記入を依頼

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

- ・ 学びつつける学校、子ども、地域の実現に向けて「協働」と「対話」を深めていくための力量向上を図る演習を行った。未来像提言として「職員同士の関わり合いが稀薄な今、『教師の学び合う場所づくり』をしてみてもどうか」、「単学級、小規模校がますます増えるので、学校間をつないで情報交換ができる場が必要」といった提案が準備された。地域や子どもを含めた学校全体を変えたいある種のきっかけ作りとしてのモデルを見出し、共有材にする提言を作成するにより、効果的な協働のあり方についての提案を準備することができた。受講者は、市の教育の在り方について提言を構想し、ミドルリーダーとして現場の状況をしっかりと捉えるとともに、協働的な活動を通して、学び続ける組織としての活動を体現させることができた。

アイデアや工夫したこと： ※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

- ・ 提言の作成に先立ち、これまでの研修内容をふまえたものとなるよう、事前課題として 1・2 回目の研修内容を振り返ることを指示した。
- ・ 中間発表を設定することで、他のグループ、大学教員からの見解を咀嚼し、提言をブラッシュアップする機会とした。
- ・ グループは、なるべく異質の方を混ぜ合わせ議論させることで、後に像のプレゼン作成の際の葛藤を語ってもらう手掛かりとなるようにした。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

